

論述ブースト No.17

医療倫理の4原則を使いこなす ― 自律・善行・無危害・公正を論証の骨格にする

導入文

医療倫理の問題を「患者の気持ちを大切にすべき」という感想で論じると、採点者には論拠のない答えに映る。ピーチャムとチルドレスの「医療倫理の4原則（自律尊重・善行・無危害・公正）」を知ること、あらゆる医療倫理の問いに対して構造的な論証が書けるようになる。

講義概要

医療倫理の4原則（自律尊重・善行・無危害・公正）を「論証の骨格」として体系化する。各原則の定義・相互の緊張関係・優先順位のつけ方を整理し、インフォームドコンセント・延命治療・資源配分・強制治療など多様なテーマにこの枠組みを適用する実践力を育てる。

授業目標：医療倫理論述を感想から、4原則を論証の骨格として使う構造的な論証へ変える。

対象者：高2～高3・浪人生。医学部・医療系の総合型選抜・推薦入試で、医療倫理テーマの小論文・面接に備えたい生徒。

授業時間：授業90分+演習・質疑応答30分

到達目標：4原則を定義して対立例を挙げられる／4原則の対立を論点として整理できる／多様な倫理テーマに4原則を適用できる

授業構成（90分）+演習・質疑応答（30分）

授業90分：1 導入：感想の答えと4原則の論証を比較 2 自律尊重：患者の意思決定を支援する原則の意味と限界 3 善行：患者の利益になることをする原則 4 無危害：害を与えないという原則・善行との緊張 5 公正：資源配分・機会均等の原則 6 対立と優先：4原則が衝突するシナリオを整理 7 演習：ICの拒否・資源配分・強制治療を4原則で論じる

追加30分：「患者が治療を拒否した場合に医師はどうすべきか」を4原則の対立として300字論述する演習と質疑応答を行う。

板書・スライド骨子：4原則の定義と代表例／4原則の相互緊張関係図／対立シナリオの整理／論証骨子テンプレート（4原則型）

課題：「患者が延命治療を望まないが家族が希望する場合、医師はどうすべきか」を4原則を使って300字で論じる。

備考：高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡しの基礎確認をしたい方にも対応。